

●水環境・河川・流域(3) (1-A-15-3~1-A-16-2)

本セッションでは4題の予定であったが、1-A-16-2は事前に発表が辞退されたため3題の発表で、総て外国を主とする河川・流域における汚染実態の調査と水環境の改善に関する調査・提言に関する発表であった。

1-A-15-3「*Huong*川(ベトナム・フエ)の水環境と管理」では、同市を貫流している区間において、現地の大学と共同で汚染調査を実施し、未処理生活排水による汚染が主で、有機汚染と富栄養化の制御が課題であり、それには市民の環境意識の向上・啓発が最重要であることを提言したことが報告された。

1-A-15-4「世界24都市の河川表層水・水道水におけるPFOS・PFOA汚染の現況」では、田中・藤井らが行ってきた消化剤・撥水剤などに用いられているフッ素化合物(PFOS・PFOA)による世界21都市の河川表層水・水道水汚染調査の継続調査として、2008年に新に調査した3都市(バンコク・ロンドン・岩手)を加えた1,312サンプルの濃度分布に関する報告であった。ロンドンの河川表層水のPFOS、PFOAの中央値はそれぞれ14.1, 10.6 ng/lで、PFOSはこれまでの全調査の最高値、PFOAは大阪・京都・深圳に続く4位の高濃度であった。一方、バンコク、岩手は中程度の汚染であった。今後も世界の汚染状況と比較した日本の状況を明確にするとともに、対策の必要性の検討がなされることが期待される。

1-A-16-1「インドネシア・カプアス川における重金属とPAHsに関する汚染実態調査」では、非合法的な金の採掘が散在しているカプアス川の採掘地点の前後、支流の合計18地点で2008年に表流水と河床堆積物を採取し、Hg汚染の状況と共にAs, Cd, Cu, Cr, AlおよびPAHs(19種)の汚染状況についての現地行政機関との共同調査報告である。Hgは河川水・堆積物濃度ともに採掘地との関係は明瞭ではなく、それは流出・堆積の非定常性に起因すると推察している。Al, Cu, Crは非常に高濃度で、一部の地点ではAs, Cdも高濃度であった。また、PAHsは採掘地と一部の村で高く、廃棄燃料油に起因すると推定している。これまでHgのみの汚染調査が多かったが、複合汚染の可能性をより詳細に調査し、対策の要否を明確にして必要があれば提言することが重要である。

(滋賀県立大学・環境科学部 國松 孝男)